平成 29 年度

福岡県移住者子弟留学報告書

2017 Exchange Students Program for

Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

Completion Report

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

02 **福山　真伊**（ブラジル福岡県人会）

九州大学大学院　工学府

09 **太田　砥綿　マリアナ　絵理**（ブラジル福岡県人会）

九州大学大学院 芸術工学府

14 **矢野　マルシア　百合江**（ブラジル福岡県人会）

九州大学大学院　人間環境学府

18 **徳永　アレハンドロ　勇一**（在ボリビア福岡県人会）

福岡調理師専門学校

23 **竹下　ケニー**（ペルー福岡県人会）

九州産業大学　芸術学部

29 **谷川　フロレス　ホアン　カルロス**（メキシコ福岡県人会）

九州産業大学　国際文化学部

33 **合戸　祐**（トロント福岡県人会）

九州大学　経済学部

38 **岩崎　ケリー　カオリ**（ハワイ島福岡県人会）

九州大学大学院　地球社会統合科学府

ブラジル福岡県人会
福山　真伊
九州大学大学院工学府

留学の終盤を迎えて、2017 年ブラジル県費留学生として福岡に来ることができれたことに、感謝の気持ちしかありません。たくさんの人からの優しさ、時に、思いやりのある厳しさに助けていただき、この留学で色々学ぶことができました。

県費留学での目的の一つは、日本の大学での勉強でした。福岡では、九州大学の伊都キャンパスで、地球環境工学科の教授にお世話になりました。ブラジルの大学では、化学工学部を卒業している私に、少しでも環境工学の基礎を学んで母国に帰ってほしいという、教授の素晴らしい提案を受け、1 年間研究を進めました。ブラジルと福岡の環境基準の違いを始め、今現在も問題となっている博多湾の赤潮の原因と処理方法、博多湾の現状などを勉強させていただきました。

授業は、先生と相談して選択し、専門用語などは難しく感じましたが、できる限り勉強を頑張りました。初めて自分の研究室というものと、デスクがあることに感動しました。先生と研究室の皆さんはとても良い人たちで、何か分からない事があればすぐ助けてくれました。

伊都キャンパスは寮から 2 時間かかる所にありますが、一番新しいキャンパスとの事もあり、綺麗な建物ばかりで、ブラジルの通っていたキャンパスは工学部がメインだったため、色々な学部がある伊都キャンパスはとても大きかったです。

九州でとても評判のいい大学に通う事が出来て嬉しかったです。

今年の福岡県費留学生は 8 人で、カナダ、ペルー、ボリビア、メキシコとハワイの留学生達と同じ寮で生活をしました。ほぼ毎日顔を合わせることで、とても仲良くなれました。喧嘩もせず、いつも笑いがあり、話が絶えず、とてもいい関係を築くことができました。国の違いはとてもおもしろいものがあり、お互いの母国にとても興味を持ちました。

必ず誰かの誕生日にの時は、12 時を回るとケーキをみんなで食べ、その人の希望のお祝い事を後日しました。私の誕生日には寮でパーティーを開いていただき、大好物のコロッケを作ってくれました。大好きな人たちと 25 歳を迎えることができ、幸せな時間でした。

旅行も、8人でするように心がけました。印象に残っているのが、沖縄での天気に恵まれて、一日中透き通っている海に入ったこと、奈良公園で鹿を見たこと、写真などでしか見た事のない京都の金閣寺、鳥居がたくさんある伏見稲荷大社、竹林がある嵐山、宮古島の海の中に立つ大鳥居の厳島神社など自分の目で見ることができた事です。そして各県の名物料理は絶品でした。

福岡ではイルミネーションされている福岡タワー、藤園の紫色の藤のトンネル、クリスマスキャンドルナイトの海の中道公園、など色々と観光しました。

どんたくでお揃いのハッピを着たり、香椎の運動会に参加したり、全員でイベントにもたくさん参加しました。

そして留学生つながりで、友達もたくさんできました。いつも遊びに誘ってくれ、とてもよくしてくれました。特に、元県費留学生の先輩たちからは、たくさんアドバイスをもらい、助けてもらいました。

寮の管理人さんご夫婦にもお世話になりました。ハロウィンやクリスマスなどのイベントの時は、美味しいご馳走を作ってくれました。留学生が主催した寮でのハロウィンパーティーでは、ゲームのマリオのテーマのコスチュームと飾り付けを作り、クリスマスは留学生だけで、クリスマスディナーを食べて、プレゼント交換をしました。

1年という長い間家族以外の人と暮らすという経験はあまりできないので、一生の友達ができたと思います。迷惑をかけることがあったりしても、変わらず接してくれる留学生達には、とても感謝しています。本当にこのメンバーで過ごせた事を嬉しく思います。

留学中、ブラジルと日本の違いをたくさん発見できました。

特に、日本人は時間を守る事、電車やバスの到着や出発時間が時刻通りで、「すみません」と頭をすぐ下げる事など、やはり成長してきた国以外で暮らす事は少し大変と感じましたが、同時に違う国の文化を学ぶことの大切さを知りました。

ブラジルでは台風や地震がありませんが、日本では自然災害が起こりやすく、7月に北九州北部で起こった豪雨災害や、留学に来る前に起こった熊本の大地震などを身近に感じ、予想も難しい、阻止できない災害は怖く感じました。家族会の人も大雨の被害にあったとの事で、その方の家に行き、お手伝いをさせていただきました。

そして、ブラジルと違って、日本では四季がはっきりとしている事を改めて実感しました。留学初日から桜を、秋には紅葉を、冬には雪を見ることができました。　湿度の高い日本での夏と冬はクーラーと暖房が必須だと思い知らされました。初めて日本で春と秋を過ごすことができ、綺麗な景色をたくさん見る事が出来ました。

留学でとてもいい体験をたくさんさせてくれたのが家族会の皆さんでした。いつも話を聞いてくれ、まさに家族のように温かく暖かく迎えてくれました。

総会、ホームステイなどでたくさんの人たちと知り合う事ができ、留学生の自己紹介、母国の紹介をしたときは興味深く聞いてくれました。タケノコ狩り、サッカーと野球試合観戦、すいか割り、蛍鑑賞会、山登り、花火大会、ハイキング、工場見学、もちつき、などと毎月必ずイベントがあり、とてもありがたく思いました。

福岡の野球チームの、ソフトバンクスホークスの試合での、観客が黄色い風船を飛ばす応援は、とても綺麗でした。久留米の花火大会のために、浴衣の着付けを教えてもらい、本番当日までには一人で着られることができ、女子たちでとてもいい経験ができました。ブラジルに帰っても忘れないように頑張りたいと思います。田植えを始め、稲刈り、脱穀は天気の都合で参加できなかったのですが、収穫祭で自分たちが成長を見守った見たお米は、とても美味しかったです。また、母国のお祭り、ブラジルフェスティバルに参加をし、それだけブラジルと日本の絆は深いと感じました。

家族会の皆さんのおかげで福岡をもっと知る事ができ、もっと好きになりました。福岡では、たくさんの所へ連れて行ってくれました。北九州、久留米では、様々な行事に参加させていただき、伊都では、秋の落ち葉の真っ赤なじゅうたんが見ることができれた雷山千如寺、牡蠣小屋では焼き牡蠣を、また、いちご狩りではとても甘いイチゴを始めて食べました。

留学ができたのは国際交流センターの皆さんのおかげでもあります。

福岡県の江口副知事への表敬を始め、国際交流センターの行事はどれも貴重な体験ばかりでした。

7 月には、子弟招へいのプログラムがありました。その間、色々な国の子供達と引率者との交流ができ、１２日間のプログラムで、色々な場所へ行く事ができました。引率者とともに子供たちのお世話をすることは、少し大変でしたけど、日本語が分からなくても、最後は帰りたくないぐらい、とても楽しそうにしていた子供たちを見ることができてよかったです。

こくさいひろばでは、スピーチコンテストに出たり、1 月には私たち県費留学生たちが、講師として母国の説明をしたりしました。どちらとも緊張しましたが、とてもいい経験になりました。

大濠公園の庭園でお茶体験がありました。素敵な着物を選ばせていただき、茶室への入り方、お菓子の受け渡し、お茶のたてかた、お茶の飲み方など、様々な日本の文化を先生方が教えてくれました。

私の親戚は父を除いて、みんな日本に住んでいます。この留学を機会に、長い間会っていない親戚に会う事が出来ました。
身元保証人になってくれている福岡に住んでいる父方の伯父さんと伯母さん、千葉に住んでいる母方の祖父母、叔母さんご夫婦にお会いました。

お盆には父も一時帰国して、従兄たちと釣りに行き、年明けは千葉で迎えることができました。

こうして留学に来られたのも、家族のルーツのおかげです。

留学を終えて、母国へ帰国した後、この素晴らしい留学生活の感謝の気持ちを忘れずに、県人会の行事の手伝いや、参加を積極的に長く続けたいと思います。この留学プログラムが続くようにと、留学を勧めたり、改善点を考えたりと、できる限りの努力をしたいと思います。

県費留学という素晴らしい経験、そしてたくさんの人たちとの出会いにとても感謝しています。福岡ではとても充実した日々を過ごす事ができ出来ていて、忘れることのない体験ばかりをさせていただきました。どの出会いも、体験も大事にしたいと思います。

SMBC日興証券
SoftBank

九州大学

九州大学大学院　工学研究院
環境社会部門　都市環境工学講座
教授　久場隆広
（福山指導教員）

貴財団法人のお取り計らいにより、平成 29 年度福岡県移住者子弟留学生として福山真衣氏を、約 1 年間に渡り、都市環境工学研究室に於いて受け入れ、研究生として指導して参りました。留学先として当研究室をお選びいただいたことに対して、貴財団法人ならびに福山氏に、まずは感謝申し上げます。

以下に、指導についての感想を簡単に述べさせていただきます。

福山氏には、九州大学工学部地球環境工学科(主に、建設都市工学コース)、および、大学院工学府土木系専攻(主に、都市環境システム工学専攻) の学部･大学院の授業を受講するよう指導いたしました。前期には、『環境システム論』『地下水環境システム論』『土木と社会セミナー(前期)』など、後期には、『水質変換工学』『上下水道及び水資源工学』『土木と社会セミナー(後期)』などを受講してもらいました。ブラジルの大学では化学系の学科で学び、土木系の授業科目には馴染みがないとは思いましたが、卒業研究は工場廃水の生物学的な処理に関するものであり、上下水道のような衛生工学や水資源管理といった水環境工学に関連した授業を選んで、受講してもらいました。衛生工学や水環境工学に係わる知識やスキルが向上したはずです。

当研究室での研究については、実験系の課題ではなく、調査研究『博多湾の水環境の現状と富栄養化問題について』を課しました。福岡県･市の環境白書や各所から提供いただいた各種の資料･データを基に、水質･微生物相や水環境基準の達成状況の経年変化、また、富栄養化に伴う赤潮や貧酸素水塊の発生状況を取りまとめてもらい、さらに、博多湾流域内の下水処理場に於いて、栄養塩を対象とした下水の高度処理の導入による各種の富栄養化問題の緩和の効果について検討してもらいました。その成果を調査研究レポートにまとめてもらいました。

週に1回は打ち合わせを行い、また、月に1回の研究室の日本人学生向け、または、留学生向けの中間報告会にも参加を促し、議論に参加してもらいました。また、福山氏の卒論研究の内容についてもプレゼンをしてもらいました。

最後に、2点の提案が御座いますので、ご検討頂ければ幸いです。

①香椎の寄宿舎が遠く、伊都キャンパスでの学業や研究に支障があるのではないかと感じました。学生への負担も大きいと思われます。週末は香椎の宿舎をお使いになり、平日は伊都の九大ドミトリーなどを活用されてはどうでしょうか。

②折角、授業を受講される訳ですので、単位の認定のシステムがあった方が良いと思いま

す。学生のモチベーションにもなるはずです。

福山氏の性格は朗らかで、協調性があり、他の学生や留学生とのコミュニケーションも良好でした。能力の高い人物であると感じましたので、いずれの分野に置いても活躍が期待できます。ブラジルに帰国後に、良い就職先が見つかることを祈念しております。

ブラジル福岡県人会
太田　砥綿　マリアナ　絵理
九州大学大学院芸術工学府

初めに

私はブラジル国から来ました。太田砥綿マリアナ絵理と申します。二人姉弟の長女で、２５歳で、ブラジルのサンパウロ州、サンパウロ市出身の日系三世です。ブラジルでは、２０１５年マッケンジー大学で建築学院を卒業しました。

私の祖父は、福岡県嘉穂郡出身で、1935 年に、両親と姉とブラジルに移民してきました。祖父は、船で１歳の誕生日を迎えたそうです。ずっとブラジルに住んでいても、福岡県での家族の仕事や、生活の事など色々な話を聞かせてくれました。そのことが、私が福岡県移住者子弟留学生になりたいと思った最初のきっかけでした。それとブラジルで「Instituto do Coração」という病院建築学科で研修して、そこで高齢者の問題に直面し、老人の住まいに興味を持つようになりました。そして、日本は高齢者の問題について何年も対処しているので、日本で、この問題について勉強をしたいと思いました。

日本の生活

福岡で一年留学して、色々な事を学んで、経験できて、新しい友達もできて、すばらしい時間を過ごしました。福岡へ来て、初めて一人暮らしになりました。来る前に少し心配でした。けれども、日本について、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会、大学の担当の先生と学生の皆様のお陰で、新しい環境にも早く慣れました。また、毎日、他の県費留学生と晩御飯を一緒に食べて、生活をして、家族みたいになりました。福岡では、自協学舎という寮に住みました。寮は住みやすかったです。近くに、香椎駅がありましたし、コンビニ、スーパーや公園、なんでも近くにあったので、便利でした。

母国では夏と冬の時期だけがですが、この一年間に、四季を見る事ができました。春には桜と藤の花の美しさを見て、夏には花火大会、秋には紅葉と、冬には雪で遊べました。

新しい経験

日本に着いてすぐに、大濠公園で花見をして、桜の美しさを見ることができました。また、初めて、スタジアムでサッカーの試合を見ました。アビスパ福岡対町田ビルビアでした。サ

ッカーだけではなく、野球の試合にも初めて行きました。行った時は、ソフトバンクホークスが勝ちましたので、ヤフオクドームに花火があがりました。

留学の初めの頃、福岡県海外移住家族会の佐野さんの家で、ホームスティをしました。ホームスティをして、日本の家族はどのような生活をしているかを知ることができました。いつも家族会の人達に、色々なイベントに連れていっていただき、母国でできない経験が何回もできました。例えば、田植えと稲刈りをしたり、浴衣の着付けを覚えたり、着物を着て茶道体験もできました。

最高な思い出の一つになったのは、大濠公園の「日本庭園」で着物の着付けと茶道体験をさせて頂いた事です。日本の伝統衣装である素敵な着物を着て、写真を撮ったりしました。そして、茶道の作法の説明からは、何事にも感謝や相手を思いやる心の大切さを学びました。日本文化への理解を深める、素晴らしい体験でした。

また、福岡県海外移住家族会の方々は、留学生に、季節ごとに企画を立てて下さいました。竹の子狩り、花火大会、カキ小屋、イチゴ狩り、温泉などの体験をさせて頂きました。いつも違った楽しみがありました。

日本で旅行

大学の夏休みには、他の県費留学生と旅行をしました。最初に、沖縄へ行って綺麗な海で遊びました。後は、三週間の旅で、東京、名古屋、大阪と広島へ行きました。東京へ行った時には、富士山にも登りました、それは私の夢の一つでした。富士山を登る時は、夜の７時くらいに、五合目から登り始めました。頂上まで９時間かかりました。凄く疲れましたが、頂上で日の出を見て、すごく感動しました 。

夏には、花火大会がたくさんありました。最初に、大濠公園に見に行きましたが、その時には浴衣を着ることができませんでした。久留米の花火大会の時には浴衣を着て、川岸で見ました。その花火大会は一番綺麗だったと思います。最後には宮島に旅行をしていた時に見ました。

半年くらいたった時に、母が日本へ来ました。その時、週末に一緒に旅行をしました。母と沖縄、大阪、東京と金沢へ行きました。金沢で、世界遺産の白川郷に泊まりました。そこで美しい紅葉も見られました。

冬休みに、ブラジル出身留学生の「日光クリマスパーティー」に参加しました。ブラジルの友達と会って楽しかったです。年越しは、初めて神社で過ごしました。ブラジルとすごく違うので、いい経験になりました。この休みには、直島までいきました。その島に、最高の

思い出が一つできました。直島へ行った時に、日本の有名な建築家、安藤忠雄さんのレクチャーに参加しました。安藤さんの話を聞くことができて、本当にすばらしかったです。また、レクチャーの後に、本にサインを頂いて、私は凄くうれしかったです。

研究

日本では、４月から、九州大学芸術工学府大橋キャンパスで勉強をさせてもらいました。田上先生にはお世話になりました。大学では、先生からすすめられた授業を受け、先生の研究室のゼミに参加しました。初めに、高齢者の住まいの研究をする予定でしたが、研究室のゼミに参加して、先生と話して、コンパクトシティの研究になりました。コンパクトシティのテーマは、また高齢者とも関係がありました。日本の高齢者の人口は増えているので、そのために街はコンパクトになっています。

コンパクトシティの研究のために、富山市まで行きました。その街の人口は減っていますが、高齢者の人口が増えているので、富山市はコンパクトシティになっています。コンパクトになって、公共交通を新しくして、高齢者の自立を維持できるようになっています。

研究室では、毎週ゼミがありました。その時、学生達は自分の研究を、先生と他の学生に説明すると、みんなが意見を出してくれました。このような方法で勉強するのは、初めてでした。ブラジルでは、いつも学生が先生だけと話します。この日本での経験のおかげで、自分の研究の事に加えて、他の学生が勉強している事も習うことができました。

感謝

この一年間の留学で、色々な事を学び、日本の文化と歴史や、祖父のルーツについても知ることができて、福岡県海外移住家族会、福岡県国際交流センター、先生、友達のみなさんにいつもお世話になり、私の目標を達成することができました。皆様に心から感謝しています。

ブラジルへ帰った後は、県人会のために、青年グループに参加し続けたいです。また、県人会のイベント、例えば日本祭り、九州ブロックの運動会や福岡県人会の運動会などを手伝いたいです。私はできる限り、県人会を支援したいと思っています。

ANDO MUSEUM
九州大学
B 2017
2017年 10月 28日
白川郷
平成29年10月28日
Mt.Fuji 5th
～ようこそ日本一の山へ～
富士山 2017

九州大学大学院芸術工学研究院
教授　田上 健一
（太田指導教員）

太田砥綿マリアナ絵理さんは、九州大学芸術工学部環境設計学科に1年間の特別研究生として在籍しました。

大学では、学部の建築設計演習プロジェクトを履修し、対象となった熊本地震被災地の仮設住宅地のための集会所の提案を行いました。世界的な規模での災害が想定される中、日本での災害復興の現状・復興の状況を学んだことは、本人にとって有意義だったと考えられます。

研究室（建築計画）のゼミでは、「持続的な都市の交通デザイン」についての研究に取り組みました。特に、地方都市での交通ネットワークに関心が高く、世界中の多くの事例について情報を集めるとともに、日本での事例収集も行いました。富山や長崎といった地方における小規模・低速の新交通ネットワークを調査分析し、現地に赴いてフィールドワークを実施したことは貴重な体験となったはずです。

休暇中には、日本の現代建築、伝統的建築を数多く訪れたようです。建築の知識や空間体験を重ねたことは、今後、計画者・設計者という専門家として仕事をしていく上での糧として大きく生かされるはずです。

研究室のイベントにも参加してくれました。誠実な人柄から、大学院生や他の留学生など、研究室のメンバーとも交流を深めたようで、これからの日本-ブラジルの交流のブリッジとして大いに期待されます。

矢野マルシア百合江

ブラジル福岡県人会

九州大学大学院人間環境学府

最初に

私はブラジル国から参りました、矢野マルシア百合江と申します。一人娘です。ブラジルの、サンパウロ州、サンパウロ市出身の日系４世です。お父さんの家族は熊本県、お母さんの方は福岡県からブラジルへ移住しました。母国ではマケンジ私立大学で建築とアーバンデザインを勉強し、2016 年に卒業しました。2017 年 4 月から日本で留学を始めました。福岡県人会・ブラジル県人会の皆さん、家族会、九州大学の坂井先生、プラサナ先生、研究室の皆さん、身元保証人、親戚の皆さんなど心から感謝申し上げます。この一年間日本でお世話になりました。

生活について

この一年間、福岡県での生活はとても楽しかったです。日本の文化を学べて嬉しかったです。初めは、いろいろ日常的に慣れるまで少し大変でした。最初は、たまに漢字が読めなくて、商品のブランドも良く分かりませんでした。電車の乗り換えなど、間違った事もありました。知らない事は、先輩たちが教えてくださいました。また、自協学舎に到着した次の日、午前中は書類の手続きをして、午後から先生に会いに行きました。夜は、寮の管理人の後籐さんから、楽しい歓迎会をしていただきました。それからしばらくたつと、学校で友達も出来て、忙しくも楽しい生活を過ごしました。毎日大学に行って、授業に出席するか、図書館にいました。毎晩県費の皆さんと一緒に晩御飯を食べました。研究が忙しくなると会えない日もありましたが、皆さんは親切な人で、県費たちどうし声かけしたり、お話もしていました。

週末は、家族会と国際交流背センターから、イベントに招待してもらい、参加させていただきました。日本の伝統的なイベントを見たり、体験したりしました。福岡ハビタット 20 周年記念、こくさいひろばカフェ、着物着付け、茶道体験、いちご狩り、山登り、田植え、ホタル観賞会、ホームステイ、野球とサッカー試合、防災センター、花火大会、様々な機会がありました。ブラジルでも、日系人として、会館や桜会や太鼓など、日本の文化が広がるように頑張ることが重要だと思いました。

日本は 4 つの季節をはっきりと感じました。思った以上に夏は暑く、気温と湿度が高かったです。冬は寒かったけど、雪を楽しみました。大学や天神駅まで、自転車で移動することが多かったのですが、たまには電車とバスに乗っていました。公共交通機関の時間厳守とマナーに、良い印象を受けました。そして、街の雰囲気も気に入りました。福岡県の位置は、海外や国内から見ると、便利な所だと思います。

日本の伝統的な文化体験と休暇旅行

家族会と国際交流背センターの皆さんのおかげで、日本の文化を体験出来たと思います。日本人のマナー、チームワーク、ボランティア活動、おもてなし、頑張りをすごく感じることができました。大学の友達とバレーボール練習試合にも参加しました。筥崎宮で、ぼたんの花も見に行きました。福岡の祭り、各地域の神社やお寺も実際に経験出来て嬉しかったです。日本人は繊細で、日本は、世界で最も社会的な不平等度が低い国の一つである、素晴らしい国だと思います。

県費の皆さんのおかげで、言葉に出来ないほど大切な思い出を作りました。親戚や友達にもお世話になりました。福岡県や旅行で出会った人たちも親切な人でした。各県では特徴的な名物料理がありました。すべての場所がすばらしく、人口が増えているところと減っているところの違いを知ることができました。。日本のトイレや公共の場所などは、本当にきれいに整備され、どこも完璧でした。

建築の授業とたくさんの建築関係イベントに参加させていただき、とてもいい経験になりました。防災や、環境や、人間環境や心理学などが課題とされていました。デザインが人に与える影響は、私がとても感動した話題の一つです。休暇中の旅行では、学校の授業や本で学んだことを実際に経験することができました。都市計画については、私が旅行中に経験したことで、知識を深めることができました。伝統的な建物や新しい建物、公共空間の使い方を見たり、友達と旅行したりすることは、本当に楽しかったです。

勉強の事

教授からのリクエストは、建築分野に貢献するような新しい結論を提案する研究テーマを決める事でした。時間が限られていたので、ブラジルにおける大学キャンパスの特徴について研究することに決めました。そして、その研究を発表するため、鹿児島で開催された日本建築学会に行きました。研究はブラジルの大学についてでしたが、授業では日本の建築、防災、都市計画を受講し、嬉野市の夏季セミナー、都市共生デザインセミナー、ゼミの論文を読む事で、非常にいい経験になりました。韓国と中国の先輩たちからも、各国のお話しを聞いてとてもいい経験になりました。いつか行きたいと思います。研究室の皆さんも真面目な人たちで、とても親切でした。

感謝

留学では、家族や友達などから離れて、長い期間会えなくなります。けれども、日本ではいつも県費の皆さんや大学の友達に相談することが出来るので感謝しています。ブラジルにいる友達と家族も身近にいる感じがします。私は、県費のみんなと嬉しさ、悲しさ、心配、疲れ、頑張りを共有したので、その思い出を大切にしたいです。留学中に亡くなられた、身元保証人の萩尾さんにも感謝いたします。長い間お世話になりました。そして、萩尾さんの奥さんと関さんにもお世話になりました。心から感謝いたします。

県費の皆さんとは、いつも話をしたり、旅行、晩御飯、散歩、買い物に行ったり、楽しい時間を過ごしました。県費や先輩たちからも色々教えてもらって、日本の生活がもっと楽になれました。母国に帰ったら、皆と離れてきっと寂しくなると思いますが、また今度会える機会を楽しみにしています。それまで、私は頑張ります。

私の人生で、この一年日本に過ごす選択に、後悔はありません。前からブラジルと日本の交流があったので、この留学が実現したのだと考えています。また、ひいおじいちゃんがブラジルに移住した事や、祖父祖母が日本語を教えてくれたり、日本の文化を紹介してくれたことに感謝しています。私も、少しでも皆さんに協力を出来たら嬉しいです。帰国後、頑張り続けます。

これからも宜しくお願い致します。

九州大学大学院人間環境学府
教授　坂井 猛
（矢野指導教員）

矢野マルシア百合江さんは九州大学人間環境学府の研究生として、平成 29 年 4 月から私が所属する建築学部（箱崎キャンパス）を中心に学業に励まれました。ゼミと授業に参加しながら、ブラジルにおける大学キャンパス計画やその特性について研究しました。マルシア さんは、日本語でのコミュニケーションを取りながら、大学院生や大学生とも交流をしていました。

またこの一年間、日本語、建築防災、景観設計、都市設計、環境心理学特論の授業を受けていて、鹿児島で行う日本建築学会九州支部研究発表会に参加する事になりました。夏休みの際プラサナと坂井研のゼミ研究生と一緒に熊本発見旅行と嬉野市夏季セミナーに参加しました。その以外、第 11 回福岡県景観大会、アジア福岡デザイン、都市共生デザインセミナーなどのイベントに行って、日本において学んだことは、 マルシアさんの将来にとって意義あるものになったと感じています。

一世紀以上前に先祖が日本から外国移住し、その後父祖の国を訪れたる本人にとって、本制度は極めて貴重で重要なものとなっており、国際交流センターのサポートも非常にきめ細かいものと感じました。是非この制度を継承し、今後もたくさんの日系留学生に来日の機会を提供してくれることを期待します。末尾にマルシアさんの帰国後のますますのご活躍を祈念します。

在ボリビア福岡県人会
徳永　アレハンドロ　勇一
福岡調理師専門学校

自己紹介

皆様、こんにちは。僕は、在ボリビア福岡県人会から今回のプログラムに参加させていただいた、徳永アレハンドロ勇一です。４人兄弟の長男で、母と父の６人家族です。僕のお父さんも、同じプログラムで日本に研修で来ていたこともあり、昔から日本に来ることが夢だったので、福岡に来ることができて、とても嬉しいです。

今年、県費留学生として来ることができて、自分の夢の範囲が広がり、大きな一歩を歩めたと実感できました。自分は、福岡調理師専門学校で調理師の勉強をするために来ました。このレポートを皆さんが読んでいるころには、もう卒業していると思いますが、調理師免許を得るために頑張っています。

日本に来てからの日々

日本に来てとても不安でしたが、県費留学生の皆さん、福岡県国際交流センターの皆様、家族会の皆様、学校の方々がとても優しい方なので、とても充実した毎日を送ることができました。学校初日は、福岡県国際交流センターの方が付き添ってくれたので、安心しました。初めは緊張していましたが、先生がいろいろ気にかけてくれたので、安心して授業に集中できました。また、同級生とも友達になることができ、毎日を楽しく過ごすことができました。毎月、家族会の皆様にいろんな場所につれていってもらったり、イベントに参加させていただきました。

来る日も来る日も、毎日やることがあるので、忙しくないと言えば嘘になりますが、充実した日々を送ることが出来ました。来たばかりのころは、右も左も分からず心細かったのですが、今となっては、もっともっと日本の文化、伝統、食、この一年を通して益々やりたいことが増えていくばかりのように感じます。

学校生活

日本に到着した次の日には入学式があり、福岡県国際交流センターの方に会場まで連れて行ってもらいました。知らない場所で、知らない人達ばかりだったので、不安しかなかったのですが、周りに溶け込むことが出来て、ひとまず安堵しました。

福岡調理師専門学校では、公衆衛生学、食品学、栄養学、衛生法、食品衛生学、調理理論、食文化、サービス経営学、フランス語、調理実習の１０科目があります。勉強は、漢字が多くて大変でしたが、それも勉強の一つなので、一生懸命覚えました。調理実習では、一班４人で回していくものでした。自分たちで役割分担をし、２時間という短い時間に３品仕上げるという内容です。

学校が始まり、１か月たったころには初めての実習テストが始まりました。最初のテストだけあって、みんなとても緊張していました。試験は人参のシャトー切りというもので、先生が試験中に出来ばえを見にくるので、手が震えて緊張しましたが無事、合格することが出来ました。

６月に入ってまもなく、学校では、最初の試食会がありました。ダークスーツを着て、今回は一流ホテルの会場で中国料理をいただきました。そこで、中国料理をいただく際に守らないといけないマナーや料理について、細かく説明してもらいました。この行事を経験して、また視野が広がった気がします。

９月には、前期学科テストの時期がやってきました、全部の科目を３日間でやらなければならなかったため、毎日、３科目以上のテストを受けました。テスト範囲が、思ったより広かったため、徹夜で勉強しました。とても大変でしたが、何とか前期の科目を全て合格することが出来ました。

秋になると、雨が多く肌寒くなってきました。前からやってみたかった、大根の桂むきのテストもやりました。思っていたより難しく練習をしている時、指を切ってしまいました。こつがなかなかつかめず、焦りましたが、できないなら、できるまでやるしかないと思い、家で何度も何度も練習をしました。結果、無事に合格することが出来ました。そして、２回目の試食会が行われました。また、スーツを着て今回は西洋料理をいただきました。

１１月に入り、学校で文化祭が開催されました。そこで自分は実技バトルに参加することになりました。そこで、桂むきをすることになりました。文化祭には、留学生も見に来てくれて、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

年も明け、２０１８年に入るころには、日本に残りたいと思うようになりました。この国でできた、友達との別れが日に日に近づいてきました、この調子だと、別れの日には、号泣するかもしれません。２月に入るころには、期末テストの嵐になりそうなので、前回みたいに徹夜をしたくないので、少しずつ勉強していく予定です。

みんなに感謝

国際交流センターに月に一度の奨学金受け取りのサインを兼ねて報告会があり、いつもセンターの方々に「学校はどう？」、「皆と仲良くしてる？」などと聞かれることがとても嬉しいです。いつも親切にしていただいており、いつも自分たちを、いろんなイベントに参加させてくれます。本当にありがとうございます。

学校の先生方も、自分が留学生と知っていたせいか、いろいろお世話をしてくれました。他の人達は、自己紹介でボリビアから来たということを知り、最初は近寄りがたかったそうですが、授業を受けている間に、自分が普通に日本語を話せると知り、だんだん話をしてくれるようになりました。おかげさまで、学校に行くのが楽しくて仕方なかったです。

家族会の皆様にも本当にお世話になりました。月に一度以上、福岡のあらゆる場所に連れて行ってくださり、大切な思い出を作ることが出来ました。もし、ボリビアに来ることがあれば、是非、サンフアンに来てください。

母国では

この研修では、人と人の交流がどれほど大切か感じました。帰国した後も私はボリビア福岡県人会と世界の福岡県人会との関係を深めたいので、今後も頑張っていきたいです。

Welcome to Zamami island
Mt.Fuji
海抜 3,250m

福岡調理師専門学校
教務課長　山本　知子
（徳永指導教員）

徳永アレハンドロ勇一君のお話しをいただき、本校では今まで留学生に対して言葉や授業のフォローはしていなかったので受け入れて大丈夫なのか心配でしたが、実際本人とスカイプで話（面接）をし、流暢な日本語と落ち着いたマイペースな性格に、学校での生活は大丈夫だろうと思いました。

学校生活の様子について

入学してすぐに友人もでき、学校での生活や放課後など楽しく過していたと思います。また学園祭では留学生の友人が数名、徳永君の出場したコンテストの応援に来てくれている姿を見かけました。学校内外で友人関係はよかったのではないかと思います。

授業の様子について

実習では、特に問題なく同班の学生と実習をこなしていたとのことです。（実習教員より）料理に興味があり、ボリビアでも料理学校へ通っていたので、実習に関しては得るものも多かったのではないかと思います。また、２月に開催された「卒業料理展」では南米料理をとても分かりやすく展示し、優秀賞を受賞しました。

座学では、会話とは異なり専門用語を使っての授業に戸惑いがあったかと思いますが、前期の学科試験は問題なく終えました。が、後期に入り少し欠席が増えたことが残念でした。

生活環境の違い（気候、文化など）については、家族から事前に色々と聞いていたと思いますが、実際に生活をしてみると大変だったことも多々あったと思います。１年間、よく頑張りました。特に今年の冬は九州の福岡でも寒さが大変厳しく、朝、起きることが一番つらかったのではないでしょうか。

学校側として反省している点は、徳永君にボリビアのこと、南米料理について発表できる場を設けるべきであったということです。

お互い、興味のある「食」で異文化を知ることは、言葉以上に情報を受け入れやすく理解しやすかったのではないかと思いました。

本人にとっても学校にとっても、あっという間の一年でした。
徳永君にとってこの一年の経験が有意義なものであったこと、またこれからの人生に活かし活躍することを楽しみにしています。

ペルー福岡県人会
竹下ケニー
九州産業大学芸術学部

私の名前は竹下ケニーです。ペルー福岡県人会から来ました、日系 4 世です。このプログラムに参加させていただく前に、PUCP 大学で建築の勉強をしました。建築の他に、写真の勉強にも興味がありました。いつもカメラを片手に持ち、写真を撮るのが趣味でしたので、今回の留学で、写真の勉強をする良い機会だと思いました。建築と写真は、ある意味つながっているので、九州産業大学で写真の勉強をしようと決めました。

このプログラムが始まる前、自分の日本語とこの一年間の生活に、不安を抱いていました。誰と過ごすのか、どんな授業になるのか、何をするのか。しかし、日本に着いた初日、留学生のみんなに会って、とてもいい一年を送れると確信しました。今回の留学生はブラジル、カナダ、ボリビア、ハワイ、メキシコとペルーの合計 8 名ですが、違う国から来て、初対面の自分たちでしたが、最初から仲良く出来ました。今でも、一緒にご飯を作ったり、出かけたり、一緒に旅行のプランを立てたりします。

最初の授業で荒巻先生を紹介してもらいました。キャンパスを案内してくれたり、他の先生にも会わせてくれたりしました。その日から、皆さんは、とても良く接してくれました。何かに困ったり、問題があったりしたときは、いつも駆けつけてくれました。何か解らないことがあったら、スペイン語や英語が喋れなくても、自分が分るように、優しく説明してくれました。同級生たちも、すごく優しい人ばかりです。初めは、知り合いがいなく、授業もあまり分からなくて、心細かったです。日本人の同級生は静かな人ばかりでしたけど、いつも助けてくれました。

初めのころ、写真の勉強をするのが初めてだったので、授業についていくのに必死でした。しかし、何度か授業を受けていると、先生や同級生のおかげで、理解するのが早くなり、授業を面白いと思えるようになってきました。日本に来て、フィルムで写真を撮ったり、暗い部屋で現像を初めて行ったりしました。その他にも、スタジオで写真を撮ったり、ポートレート（肖像）の写真や、モデルさんを相手に、写真を撮ることができました。とても難しかったのですが、同時に、とても興味深かったです。また、イルミネーションの授業を受けました。これは、様々な光の角度を利用して写真を撮るものです。そして、フォトショップの

使い方を教わりました。荒巻先生のゼミでは、フォトショップの使い方をならい、大学で自分の写真の展示をさせていただきました。とてもいい経験になりましたし、いろいろな人に褒められて、とても嬉しかったです。

授業の一環で、大学外でいろいろなところに撮影に行きました。佐賀、太宰府、志賀島やイルミネーションのエキシビションに連れて行ってもらいました。勉強になりました。それに、スポーツ大会も行われ、ソフトボール、サッカー、野球をしました。同級生や先生方と一緒に時間を過ごせてとても楽しかったです。そこで、MVP 賞ももらいました。とてもいい経験になりました。

学校の行事以外にも、国際交流センターや家族会のいろいろなイベントにも招待されました。この一年のプログラムは、勉強だけでなく日本の文化や伝統も学ぶ事が出来ました。今回の留学生はすごくラッキーで、日本に着いた時、まだ桜が咲いており、公園や街中も桜でいっぱいで、すごく綺麗な景色を楽しむことができました。その他にも、アビスパやソフトバンクホークスの試合も見に行くことができました。両方のスポーツが好きなので、初めて日本で見ることができて、とても楽しかったです。

家族会のいろんなイベントにも参加させていただきました。竹の子狩り、スイカ割り、ハイキングや田植え、数えきれないほどの楽しい時間を過ごさせていただきました。ホタル観賞、鉄工場、ビール工場といった、とても興味深い場所に連れて行ってもらいました。自分は、建築の仕事を生業としているので、TOTO ミュージアムに連れて行ってもらった時、いろいろなデザインやモデルを見て、すごく興味を引かれました。家族会の家にホームステイしました。生活や習慣を身近で見ることができ、とても良かったです。1 泊しかできなかったのですが、いろんな話ができ、一緒に食事をしたり、畳の上で寝たりして、とてもいい経験になりました。

日本に来て一番印象に残ったのは、茶道体験です。着物を着て、茶道の心得やマナーを教わりました。正座するのは、足が痛くなり辛かったのですが、その分、本物の茶道を見ることができていい経験なりました。私のおばあちゃんは、茶道の先生だったので、すごく興味を持っていました。また、朝倉で豪雨災害があったので、留学生のみんなで、ボランティアをしに行きました。災害にあわれた場所を見るのは辛かったですが、ボランティアに参加できて本当に良かったです。この件を通して、日本人の助け合いの心を学ぶ事が出来ました。

年末は、日本伝統の餅つきに連れて行ってもらいました。何年か前に経験した事がありますが、ペルーではそのような文化はないので、とても楽しみにしていました。家族会と交流センターの皆さんは、晩御飯やバーベキューなどいつも誘ってくれました。時間を一緒に過ごして、お互いの事をもっと知る事ができました。いつも母国の事、文化の事、自分の日本

についての考えなどを聞いてくれました。交流でお互いの事や、経験などを共有する事は、とても大事だと思いました。

留学と家族会のおかげで色々なイベントに参加し、色々な場所へ行けてとても感謝しています。皆さんと一緒にいられて、初めて見る綺麗な場所へたくさん連れて行ってもらい、もっと広い視野で福岡を見る事ができ、とてもおもしろく思っています。

留学が始まってすぐに他の県費留学生たちと仲良くなれました。そしてすぐ後に私の誕生日を祝ってくれました。一緒に食事をし、カラオケに行き、とても楽しかったです。バースデーケーキと誕生日カードももらいました。それからは誰かが誕生日の時、ケーキとカードでお祝いしています。週末など、時間があるときには映画に行ったり、博多や天神で散歩したりと、みんな一緒に行動するようにしています。ハロウィンパーティーではスーパーマリオブラザーズの仮装をしました。ハロウィンの飾りやコスチュームを作るのはとても楽しかったです。クリスマスパーティーは日本風に、ケンタッキーを用意して、留学生どうしでプレゼント交換をしました。

学校休みの旅行も、留学生で一緒に計画しました。夏休みには沖縄に行き、次に東京、横浜、名古屋、大阪、奈良、京都、広島と宮島に行きました。富士山の頂上まで登る事ができました。とても疲れましたが、頂上ではとても綺麗な景色が見ることができました。東京には昔行ったことがありましたが、初めて他の県へ行き、場所、自然、建築、人、食べ物は素晴らしいと思いました。

留学の間には、日本に住む親せきに初めて会う機会があり、とても嬉しく思いました。甘木、宮崎、姫路の親戚に会いました。新幹線で、一緒に姫路城と神戸に行きました。一緒にいられてとてもいい経験になりました。直接会うことができたので、これからは連絡を取り続けて、いい関係を保っていきたいと思います。

留学が終わりに近づき、まず皆さんに、この素晴らしいプログラムに参加できたことを感謝します。とても楽しい時間を過ごす事ができ、日本文化、伝統、自分のルーツをもっと知る事ができました。子供の時、おじいちゃんとおばあちゃんがいつも日本の話をしてくれた事を覚えていて、いつか日本に来たいと思っていました。今は一緒にはいないけれど、話してくれたことを思い出しながら、留学できた事、1 年間日本で生活できている事を、とてもありがたく思っています。

この留学中に素敵な経験ができた事、新しい場所へ行けた事、たくさんの人と知り合えたことに感謝しています。写真を勉強させてもらっている事と、その他にも日本をもっと知る事、たくさん新しい友達を作る事で、私の人生はもっと豊かになりました。

ペルーに帰国したら、この留学で学んだことを活かし、福岡や日本の知識を広めたいと思います。ペルー福岡県人会の行事を手伝い、若い人たちに自分のルーツの事や先祖の国の事をもっと知ってほしいです。ペルー福岡県人会と福岡のつながりがこれからも続いて、次の世代の人たちには自分のように色々と経験してほしいと思っています。

んこつラーメン専門店
一蘭原宿
ECLIPSE CROSS

九州産業大学芸術学部
助教　荒巻　大樹
（竹下指導教員）

竹下ケニー君は建築及び風景写真の撮影技法を習得するために研究生として年間研究を行った。既に一般的なカメラ機材の操作や撮影については独学にて習得していたため、写真撮影の基礎を完全に習得することを目指し、指導を行った。前半においては人物撮影やライティング技術についても写真撮影を行っていく上で重要なポイントになるため合わせて指導を進めてきた。

彼は指導以外においても、写真撮影を行っており、寮でのイベントや旅行の際に撮影を行い、撮影した写真について意見を求めるなど積極的であった。被写体をどのように撮影すれば自身のイメージに近づけることができるかなど、工夫しながら撮影を行い後から見返す作業を続けることによって、撮影を重ねるごとに撮影技術の向上が見られた。アドバイスを行うと、必ず、それを試し結果について撮影してきた写真について評価を求めるなど、非常に勤勉であった。

前半のまとめとしてグループ展を実施した際は、展示する写真のサイズや写真の配置など工夫を行い、パノラマで撮影した作品を織り交ぜた展示を行った。展示に使用した作品は、被写体のディティールや形、色を意識して撮影された作品で配置の工夫も相まって非常に良い仕上がりとなっていた。

後半では、撮影技術の習得に加えて画像処理による画像編集についての習得を目指した。建築写真は建物の垂直線を正しく出す方法や、室内･室外の光量差が多い場合での撮影･処理方法、複数枚の画像データを使用したパノラマ撮影、風景写真ではRAW データからの現像処理、レイヤーやマスクを使用した部分補正、レイヤー合成を使用したStar Trail 技法など様々な技法を習得すると共に自身の作品制作においても習得した技術を応用するなど、撮影技法に加え処理技術についても習得した。

1年間のまとめとして１月に展示を実施。Japan：A journey through my rootsというタイトルで滞在中に訪れた際に撮影した作品を展示した。それぞれケニー君の視点で捉えられた日本の光景が映し出されており、充実した1年間を過ごした様子が窺えた。どの作品も綺麗に仕上げられており、非常に良い展示になっていた。

わずか1年間の滞在期間であったが、熱心に研究活動を行い、知識･技術を修得した。撮影を始め制作を熱心に行っている姿は他の学生の見本となるような学生であった、帰国後の活躍が非常に楽しみである。

メキシコ福岡県人会
谷川　フロレス　ホアン　カルロス
九州産業大学国際文化学部

あと一ヶ月間半でこの留学が終わります。あっと言う間に、10 ヶ月間が立ちました。この一年間に、いろいろな苦楽を経験したおかげで、僕にとって貴重な体験になったと思います。

福岡に到着した時、留学生活をしながら、いろいろな悩み事がありました。言葉の壁、カルチャーショック、初めての経験などが心配でした。

最初の僕の研究課題は「敬語」でした。しかし、僕は、文芸創作的な背景を持っているので、本当に勉強したかったのは、「怪談」でした。須永先生の知識を学ぶために、福岡県国際交流センターと先生の協力で、テーマが変更できたのでよかったです。ただし、民俗学的なアプローチを取らなければなりませんでした。

九州産業大学国際文化部では、文学だけでなく、民俗学、比較文化、日本人論なども勉強していました。入門コースですが、クラスで使っている単語は、なかなか難しいです。日本の教え方も、メキシコで通っていた大学と違います。先生は時間を守ります。また、先生と生徒はあまり交流しません。しかし、須永先生の講義には、同級生はよく参加していました。特に、ゼミナールに参加しないと出席とみなされません。

ゼミナールでは、クラスで利用している本の中から、章を二つ選んで、それについて発表することになっていました。僕が選んだのは、日系社会と学校の怪談でした。しかし、残念ながら、日系社会のテーマについては、うまく書けず発表できながったので、パニックに陥り、学校を欠席してしまいました。国際交流センターはそれに気付き、須永先生と話をした結果、改めて出席して、第二回目の発表がうまくできました。

夏休みに東京に旅行している間、浮世絵太田記念美術館で、月岡芳年のエクスポを見学しました。特に、新形三十六怪撰と和漢百物語という妖怪絵収集は気になりました。月岡だけでなく、昔から幽霊、特に怨霊は芸術に様々な方法で表現されて、もっとも一般的な姿は面目をつぶした女性。この表現では、女性は規則的な家庭内と家庭外暴力の対象であり、死ぬ時に、巨大な怨念を持って、その怒りを加害者、または無関係者に祟る。日系人

として、これには僕も心が動かされます。なぜなら、メキシコにも男女不平等は現実にあります。怨霊に関して、日本人女性の社会への知覚を見出すつもりです。

こう言った思考回路を広げて研究を続けて、後期のゼミナールのレポートとして発表するつもりでした。しかし、研究課題の複雑さをわかっていなかったため、できませんでした。なぜなら、民俗学に関してだけじゃなくて、性役割や歴史にも関係していて、情報不足だったからです。

悔しい話ばかりではありません。一人で、あるいは、県費留学生と一緒に、いろいろな体験をしました。いろいろなものを学びました。いろいろなものを果たしました。毎日、皆と一緒に日本語で会話して、料理当番の時は、ほぼ毎回日本とアメリカ大陸の様々な料理を作っていました。こんな立派な交流と友情のおかげで、日本語能力試験二級を受けて合格できました。

お互いに応援して、いろいろな発表会とワークショップに参加しました。母国と県人会の魅力を紹介することができました。富士山の頂上まで登ることができました。茶道体験に参加しました。田植え体験もしました。子弟招へいの手伝いをしました。朝倉市水害の被災者のためにボランティアをしました。福岡の八女市の親戚にも、ようやく会えました。

スピーチコンテストに参加して、メキシコシティー大震災と日本災害対策について話しました。九州産業大学では、ゲストスピーカーとして英語の交流会に参加しました。メキシコの文化について発表して、同級生の英語能力を審査しました。

県費留学生というプログラムに参加した皆のように、僕も、この機会を与えてくれた県人会に恩返しをしたいと思っています。日本に来る前に、メキシコ福岡県人会における役目は委員会委員でした。毎月、日本と日系文化について発表していました。 また、県人会のさまざまなイベントやお祭りで、ボランティアをしていました。しかし、帰国後はもっと、県人会で活発に活動するつもりです。次世代にいい影響を与えて、日本語の授業と県人会月刊に出版などを利用して、県人会で活躍したいと思っています。

先生、国際交流センター、家族会、身元保証人、県費留学生の皆さん、色々と心から誠に感謝いたします。県費留学生のプログラムに参加させていただき、ありがとうございます。これからも、よろしくおねがいいたします。

GODZILLA ROAD
HOTEL GRACERY
カラオケ
Elborracho

九州産業大学国際文化学部
准教授　須永　敬
（谷川指導教員）

本学における研究指導のテーマは「日本の都市伝説について」であった。日本社会における伝説や都市伝説について、主として民俗学の方法による研究を行った。

大学における学習内容としては、まず民俗学・文化人類学等のテーマに関連する講義を受講し、研究を実施する上での基礎的な教養を身につけるとともに、文学関連の講義を受講して日本語表現について学習を行った。また少人数授業である、ゼミナール II の授業においては、これらで得た知識を元に、テキストの輪読と研究口頭発表を行った。発表の内容は「学校の怪談」に関するものであり、学校の怪談と都市伝説との関係、民間説話の分類法、史実ではない歴史としての伝説、といった問題について報告した。

また、学習のまとめとして研究レポートを執筆した。内容は「怨霊と女性の民俗」に関するものであり、日本の女性の怨霊（般若・お岩さんなど）と、メキシコの女性の怨霊（ラ・ジョローナ）の事例とその特徴について分析するとともに、日墨の女性の怨霊に関する比較考察を行った。特にメキシコの「ラ・ジョローナ（泣き女）」の事例は、日本における産女の信仰などとも共通する点が多く、指導をしていても学ぶ点が多かった。

また、上記の授業以外でも、国際文化学科英語コミュニケーションコースにおける授業にゲストスピーカーとして参加し、日本の学生と英語によるコミュニケーションをとったり、日本語能力試験を受験するなど、意欲的に活動を行った。また、授業以外でも、福岡県内のみならず日本各地に赴いて、地方色豊かな日本文化・民俗文化を積極的に学んでいた。

以上のように、谷川さんは日本社会とそこに伝わる民間伝承に関する関心を一貫して抱き続けた。また、書籍にとどまらぬ知識を得るために、積極的に現地を歩くなどして研究課題に取り組んだ。今回の留学は谷川さんにとってかけがえのない日本体験の日々となったと思われる。なお、帰国後は母国の大学に在籍し、日本とメキシコの怪談についての比較研究を行う予定である。

トロント福岡県人会
合戸　祐
九州大学経済学部

初めに

両親がカナダへ移住し、私は日系二世のカナダ人として、トロントで生まれ育ちました。父が福岡出身のため、子供の頃は、福岡県人会がどんな団体かよく知らず、ピクニック、ビンゴ大会や日系文化会館のイベントに出席していました。高校の時、トロント日系文化会館でボランティアなどをし始め、少しずつ、トロントの、少ない日系コミュニティーの中に、どういう団体があるのか知りました。ヨーク大学・シューリックスクールオブビジネス卒業間近、留学に興味があり、卒業直後、福岡県人会を通して、トロントからの、最初の県費留学生として、福岡へ参りました。

生活について

他国の県費留学生のおかげで、福岡にはすぐ馴染むことができました。文化の違いで悩み、苦しむこともたくさんありましたが、県費留学生と一緒にいることで、ストレスが発散され、問題もさほど気にならなくなりました。

福岡は、湿度がとても高いため、夏はとても湿気が多く、冬は気温が高くても、かなり寒く感じました。カナダはとても乾燥するため、肌質と髪質は、日本で生活をしていた時の方がかなり良く感じました。福岡の食べ物は安くて美味しく、帰国したらとても恋しくなると思います。日本食は、種類も豊富で健康に良いものがたくさんあるため、ついついたくさん食べてしまいます。

この１年で、日本の文化に触れる機会は、１日たりとも途切れないほどたくさんありました。週末は、イベントで埋め尽くされ、お茶、お花、お琴、着付けなど数々の体験をはじめ、桜鑑賞、藤園鑑賞、野球やサッカー見学、お祭り、ホタル鑑賞、花火大会、温泉巡り、海水浴、富士山登山、紅葉狩り、お寺巡り、数々の工場見学、餅つき、牡蠣小屋、いちご狩りや、通った博物館は数え切れません。国際交流センターを通しても、たくさんイベントがあり、表敬、スピーチコンテスト、子弟招へい事業、自分の国の発表や交流会は人生で初めてで、こんなにたくさん行いました。

勉強のこと

この１年間、九州大学経済学部を通して、様々な体験をすることができました。留学が終わる頃には、大学での目標は全部達成し終わります。日本の歴史、経済史や専門である経営学を日本の視点で学び、興味のある環境経済や倫理の勉強も、レポート作成や授業などを通してできました。経済史は思っていたより、ずっと難しく、日本の歴史の長さに頭を抱えることが多く、今でもまだまだ分からないことだらけですが、先生方、優秀なクラスメイトの指導のおかげで、経済史の知識を高める入り口が九州大学で、とても良かったと感じています。経営学の授業ではビジネスシミュレーションソフトを使い、毎週他グループと競い、データを分析し、戦略をたて、戦術を実行するのを繰り返しました。経営学は母国で専門としていたので、学びやすく感じましたが、日本人だけのクラスで、日本人だけのグループに混ざり行動するのは、文化や言葉の行き違いがあるため、人間関係の面で学ぶことが多く感じました。環境経済とゲーム理論の授業では、国境を超えた協力のジレンマについて、７０分のプレゼンを二人一組で行ったため、世界が協力し合い、良い経済発展をするのはとても難しいことだ、ということを主に学ぶことができました。日本語の授業は自分に合ったものがなく、断念したものの、先生と良い関係を持ち、論文作成本のアドバイスや、私が最も苦手とする漢字のテスト用リストももらい、悔いなく日本語の勉強もできたと思います。

大学では、教室外でも学ぶことがたくさんありました。ゼミ旅行や合宿などは、大学の延長戦で、どちらとも徹夜で課題に取り組み、クタクタで旅行を終えました。一泊二日のビジネス合宿では、ある企業の指導のもと、VR や AR を含んだビジネスプランを作成し、それをプレゼンする課題を出され、二泊三日のゼミ旅行では、旅行先の地域からデータを集め、土地計画のプランとプレゼンをする課題を出されました。普段はグループワークの時、常に効率良く仕事を終わらせる癖がついておりましたが、皆のアイデアがまとまらない時も自己主張せず、おだやかに解決策へ取り組むスタイルはとても勉強になりました。

大学祭でも、学ぶことがたくさんありました。大学 MBA の生徒さんと一緒に、学祭で飲食店を出店し、大学のコンペに参加しました。ビジネスプラン、プレゼン、売上など、様々な課程で審査され何ヶ月もかけ二日間の学祭に挑みました。たくさんの家族会のメンバーや友人がお店に当日駆けつけてくれて、お店は二日間とも、大好評でした。最終的には、優秀なグループとチームワークのおかげで、コンペを優勝することができ、とても嬉しかったです。日本人の社会人の方々と一緒に団結して、こういうイベントに参加して学ぶことはとても多くありました。

感謝と今後について

私は県費留学生プログラムに参加し、日本で一年間生活することで、学ぶことは数え切れないほどありました。大学からだけではなく、たくさんのイベントや旅行をすることで、自分の日本のルーツを探り、より多くの人と日本で接することで、自分の視野を広げることができたと思います。ブラジル、ボリビア、ペルー、メキシコとハワイからの七人の県費留学生と一緒に同じイベントに参加し、問題を乗り越え、生活をすることで、かけがえのない、一生ものの絆もできました。この素晴らしい経験をサポートしてくれた皆さん、福岡県、先生方、家族会、親戚の方々、国際交流センター、トロント福岡県人会の皆様、本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。そして、この留学に導いてくれ、つねに心がけてくれ、心の支えになり、応援してくれた家族にとても感謝しております。

トロントへ帰国後、一年間の留学生活を活かし、今後、福岡県人会や留学の質問などを受けた時は、自信を持ってトロント福岡県人会の一員としてサポートできるよう、頑張りたいと思います。応募書類にも記載しましたが、トロントの福岡県人会の初めての県費留学生ということで、フェイスブックポストや写真をまとめた、簡単なブログを通して、県費留学でどんなことを行ったのか、発信しつつ、質問なども回答し、トロント福岡県人会のお手伝いをしたいと考えております。

Blog: https://torontofukuokakenpi.wordpress.com/

九州大学

九州大学経済学部
准教授　北澤　満
（合戸指導教員）

まず、合戸さんには、私が担当する「経済・経営学演習」に参加してもらった。私が、日本経済担当教員であるため、この演習では、近代日本経済史に関する学習を行った。また、演習での学習の理解を促進するため「日本経済史」、「西洋経済史」、「経済史Ｉ」などの授業や、指導教員の大学院経済学府開講科目である「産業社開史特研Ｉ」も聴講してもらっていた。いずれも真面目に受講していたが、本人の当初の学習希望分野とずれていて、大変そうであった。

このため、合戸さんと相談の上、指導教員の専門にこだわらず、自分の学びたい分野の授業を多数履修するよう、方針を変えた。前期には、QREC の「テクノロジーマーケティングゲーム」、後期には大学院経済学府Ｇ３０の「環境経済学２」など、学部や専門にこだわらず、感心のある授業に出てもらうこととした。結果として、この方が合戸さんにとっての学びに好影響を与えたように思われる。

さらに合戸さんは、正規の授業以外についても、積極的に学びの場を広げていったようである。QREC 関連では「HP ビジネス合宿」に参加し、チームで企業のマーケティング部指導のもと、VR や AR を含んだビジネスプランを作成し、それをプレゼンするという課題に取り組んだ。また、QBS の九大祭関連行事である QSHOP にも積極的に関わり、コンペで優勝することができた。特に、この行事については、日本人の社会人と交流しながらイベントに参加することで、学ぶことは多かったようである。

以上の通り、合戸さんは、大変積極的に学習しており、高く評価すべきであると思われるが、大学サイドの受入体制として課題もあったことを指摘しておく。彼女の日本語運用能力は非常に高いが、その実力にあった日本語学習クラスが開講されておらず受講できなかった。

この制度を通して彼女を受け入れてよかったと思う。彼女の帰国後のご活躍を期待している。

ハワイ島福岡県人会
岩崎　カオリ　ケリー
九州大学大学院地球社会統合科学府

最初に

私は、日系５世でハワイのヒロという町から来ました。大学に通う前までは、両親と弟と一緒に暮らしていました。２０１７年の春にハワイ大学マノア校を卒業しました。卒業式を終え、二週間後に県費留学生として日本に来ることになりました。私はハワイ福岡県人会から来る、初めての留学生だったので、少し不安でしたが、昔から日本の学校で日本語を勉強することが夢だったので、とても嬉しいです。

私の祖父が、ハワイで送って来た生活は、想像することしかできませんが、今の私がこうして生活できているのは、ご先祖様たちのお陰であることを忘れません。ご先祖様たちとは違う意味で、私も頑張ってきました。いろいろな困難を乗り越え、泣き、笑い、自分のルーツ、目標、日本と世界の関係について考えました。こうして、県費留学生として日本に来られて本当に良かったです。

勉強の事

私の学校は九州大学伊都キャンパスで、自転車に乗って箱崎キャンパスまで行き、そこからシャトルバスを利用します。通勤は１日３時間かかりますが、自転車に乗って公園を見たり、犬の散歩を見たり、幼稚園のバスを見ると、いつも楽しくなります。

自分の研究課題について考えた時、最初は、福岡のルーツを発見したいと思いました。しかし、私は、日本語を読むことができないので、私の教授は他の課題を探した方がいいと言いました。そこで、私がハワイに戻ってからのことを考えながら、私は、県費留学生のグループに興味を持つようになりました。この県費留学生プログラムは、異なる世代の世界中からの日系人が１年間同じ寮で生活する機会を提供してくれました。

私は教授のところに戻り、県費留学生としての私を、研究の課題にする方法を教えてくれました。 彼は、私たちの日々の活動の中で、県費留学生の経験、思考、比較を記録することを提案してくれました。 私は週に一度教授と面談し、新しい視点と別の視点から書くことはできないか、議論しました。たとえば、県費留学生は日本、中南米、中米、北米、太平洋の文化的な違いを話していたので、それらを書くことにしました。

日本に来て、「日本とグローバリゼーション」、「日本の高齢化」、「今日の社会生活の社会学」、「人種・少数多様性、日本の多様性」などの社会学の授業を取りました。そのお陰で、日本のことをもっと知る事ができ、また、私の研究がさらに進みました。

私の目標は、いつか、ここでの経験を踏まえた本を出版することです。そして、私はいつか、日米文学のジャンルに貢献して、言語障壁や、私の知る日本文化とは離れていることからくる難しさ、そして日系人としての認識を学んだり共有したりする喜びを分かち合いたいと思っています。

私が日本に来る前、日本語を理解したり、読んだり、書くこと、簡単な会話をすることすらできませんでした。私はこのプログラムを申し込む前、能力試験N5の練習問題をやってみましたが、どれも答えることができませんでした。日本に来た最初の日に、私は、ハワイについての簡単な質問にも答えることができず、私はすべてGoogle翻訳に頼らなければなりませんでした。

皆様が、日本語の勉強の手伝いをしてくださったお陰で、無事、能力試験Ｎ４を合格することができました。もちろん、まだまだ分からないことだらけで、初心者ですが、帰国しても日本語を勉強したいと思っています。

県費留学生の生活

私が日本の生活に慣れることができるようになり、一番の楽しみは、家でゆっくり留学生の皆さんと過ごすことでした。 映画を見たり、ゲームをしたり、夕食を一緒に料理して食べたりしました。一緒に過ごした時間が、本当に家族のように感じられるようになりました。ほぼ毎晩一緒にご飯を作りました。役割分担を決め、誰もが買い物、料理、または片づけに協力しました。 それが、私たちをとても近づけたきっかけだと信じています。このプログラムが終わると、寂しくなります。

この一年間、一緒に旅行をすることができました。私にとって、どこに行ったのか、何をしたではなく、グループとしてどのように一緒に旅したのかが、大切だと思っています。私たち全員が責任を持ち、フライトを予約し、宿泊施設を見つけ、目的地に行く方法を考え、私はこのグループのために、全力を尽くしたくなりました。そして、みんなを信用できるようになりました。一緒に行ったいろいろな行事の中で、私は、夏に富士山に登ったことが一番の思い出です。頂上に着くのに９時間かかりましたが、日の出を見ることができ、様々なポイントでスタンプを取ることができて、とても嬉しかったです。頂上で食べたラーメンの味を、絶対に忘れることはないでしょう。

今までは、世界の各地で起こるニュースを見ても、全然気にしなかったと思います。でも、今は、自分たちにとって関係のある国（ボリビア、ブラジル、カナダ、メキシコ、ペルー）のニュースを見ると、友人に及ぼす影響について考えてしまいます。

家族会の皆さんとは、とても大切な時間を過ごさせてもらいました。家族会のおかげで、私たちだけでは行けないような場所に、行くことができました。私たちのために活動を計画してくれてありがとうございます。 田植えや収穫、久留米の花火大会見学、ハイキング、福岡の祭り、牡蠣やイチゴの食べ物をたくさんいただきました。

感謝

もし、ハワイから留学生として日本に来たいという方がいれば、全力でサポートしたいです。 私の家族はハワイ島の福岡県人会の一員で、過去数年間、私の大学が他の島にあったため、県人会の活動に貢献できませんでしたが、帰ってからは、私は、募金活動などのイベントに参加したり、交流プログラムに協力したいと思います。

私は、将来の目標のために、勉強を続け、来年には、大学院に入学したいと考えています。 日本で私が過ごした時間は、社会学の学位取得を検討することに影響を与えました。私のキャリアのために、私は地方政治、特に教育と保健医療における、地域社会のための政策決定と改定に関わりたいと思っています。

この経験を通して、国際関係を追求したいと思っています。ハワイから来た私や、カナダ、ボリビア、ブラジル、メキシコやペルーから来ている県費留学生たちは、今回日本で過ごすことによって、日系人としてのアイデンティティや受け継がれたものにとても感謝するようになりました。私は日本語を勉強し続けたいと思っていますし、日常的に会話することが少なくなりますが、頑張りたいと思います。世界各国の福岡県人会、ハワイ島福岡県人会、県費留学生、そして一年を通して私を助け、支援してくれたすべての人、皆さん、本当にありがとうございました。

SPLASH MOUNTAIN
2017
Tokyo Disneyland

MARIO PARTY
Select Character
Random

九州大学地球社会統合科学府
准教授　相沢　伸広
（岩崎指導教員）

ケリー・岩崎さんの福岡滞在中における、研究指導を行って参りました、九州大学の相沢です。この度は、滞在期間、高い頻度で進捗状況を大学にて面談しました。大学の講義も積極的に受講し、また私が課した課題を非常に丁寧に進めており、非常に生産的な滞在であったと評価しています。福岡はもちろん、他の招聘留学生たちの交流の中から、新しい知見を学び取ったようで、福岡で培った経験と縁をもとに世界で活躍する人材に今後も育っていって欲しいと願っております。